

I 首都圏土壤医の会の会員状況

平成30年11月末現在

1. 会員数 42名 (昨年12月末 34名)

○ 正会員 34名

土壤医 8名 土壤マスター 21名

土壤アドバイザー 5名

○ 準会員 8名

2. 都道府県別会員数

茨城県 4名 群馬県 5名 埼玉県 8名

東京都 15名 千葉県 6名 神奈川県 2名

栃木県 1名 山梨県 1名

(栃木県、山梨県は今年度初加入)

首都圏土壌医の会の機能と 活動の基本的考え方

I 首都圏土壌医の会の機能

1. 会員の研鑽の場の提供
2. 会員の活躍の場の提供
3. 一般に向けた土壌医等資格の認知促進

II 首都圏土壌医の会の活動の基本的考え方

1. 土づくりを必要とする現場
2. 土づくりの知識を必要とする職業、職場、分野
3. 首都圏土壌医の会の可能性
4. 首都圏土壌医の会の取り組み方法
5. 首都圏土壌医の会と準会員

I 首都圏土壤医の会の機能

1. 会員の研鑽の場の提供

- (1) 土壤に関する知識の維持・向上、土壤分析等の経験値向上
 - セミナー
 - 土づくり現地研修会
 - 総合研修会
 - 土壤調査基礎講習会

- (2) 土壤医等登録者の交流・情報交換
 - 交流会の開催
 - ウェブサイトによる会員間の情報交流

- (3) 上位資格取得等に向けた研修等
 - 土壤医検定試験対策講習会
 - 協力農家と連携した研修・研究の場の提供(将来構想)

2. 会員の活躍の場の提供

(1) 研究部会活動

会員が、各自の課題・思いに基づきテーマを定め仲間を集め研究部会活動を行うもので、首都圏土壤医の会の目的に沿った研究・情報交換等を行い、首都圏土壤医の会の発展に寄与することを目的とする。

(2) 個別事業活動

個別事業とは、会員と行政、企業、団体、個人が協力連携して本会として実施する事業であり、首都圏土壤医の会の目的に沿ったものに限定し、首都圏土壤医の会の発展に寄与することを目的とする。

トピック

平成30年度「農の機能発揮支援アドバイザー派遣事業」の関係協力団体に指定されました。

首都圏土壤医の会の体制が整った段階で実施を検討する

3. 一般に向けた土壌医等資格の認知促進

認知促進対策イメージ

- (1) 一般に向けたセミナー、研修会の開催
- (2) 関係イベントへの積極的参加
- (3) 首都圏土壌医の会の活動をメディア等に積極的にPR

今年度は、実施体制が十分でないため、具体化に向けた検討を行う。

Ⅱ 首都圏土壌医の会の活動の基本的考え方

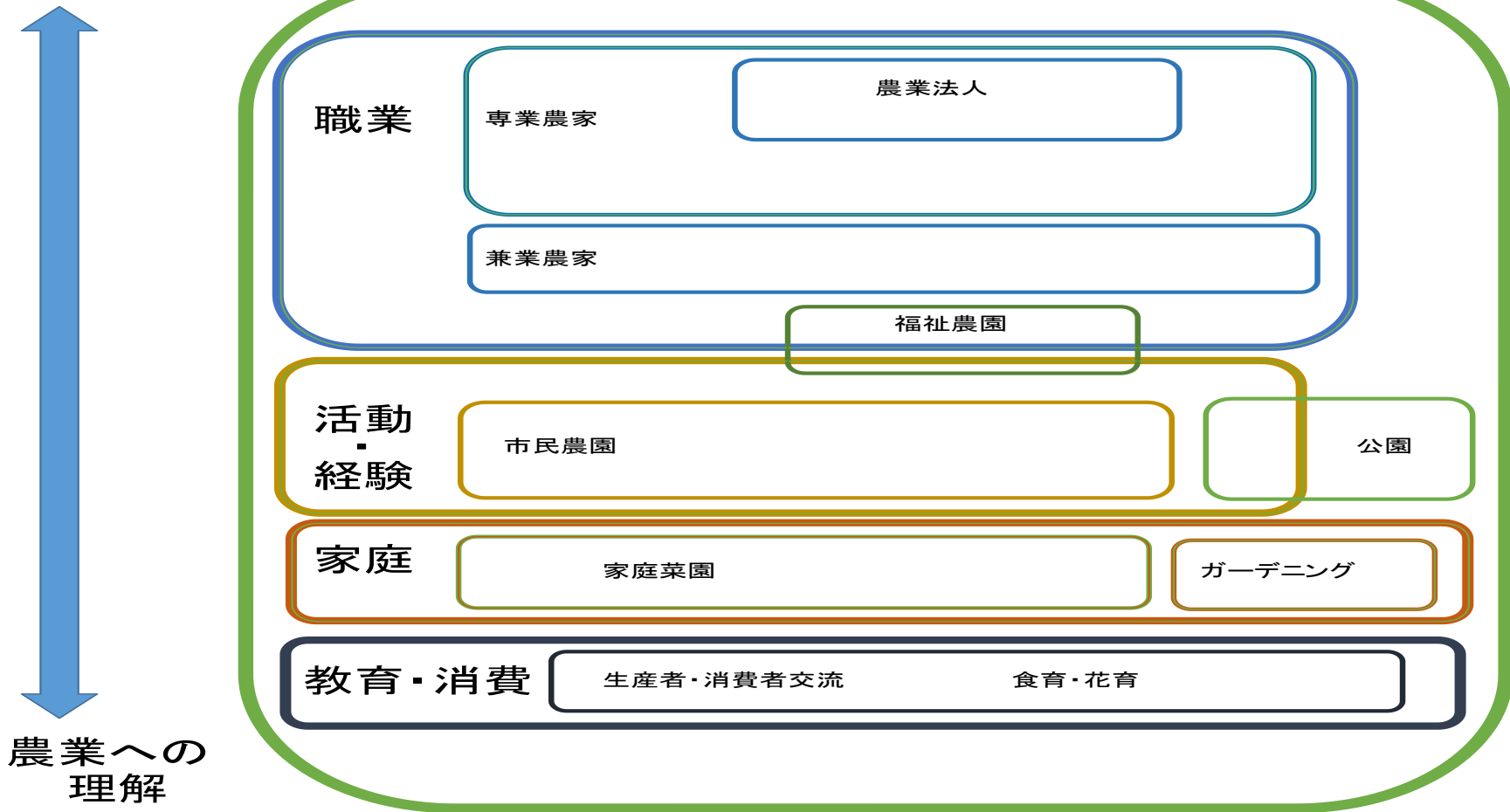
1. 土づくりを必要とする現場
2. 土づくりの知識を必要とする職業、職場、分野
3. 首都圏土壌医の会の大きな可能性
4. 首都圏土壌医の会の取り組み方法
5. 首都圏土壌医の会と準会員

Ⅱ 首都圏土壌医の会の活動の基本的考え方

1. 土づくりを必要とする現場

穀類、野菜、果樹、花き、植木栽培等

農業生産の向上



2. 土づくりの知識を必要とする職業、 職場、分野

(1) 農業

専業農家、農業法人、兼業農家

(2) 農業関連企業・農協

肥料、農薬、用土、種苗、微生物資材、農機具、土壌改良剤等メーカー・販売店、農協

(3) 農業行政機関

行政農業関連部署

(4) 農業関連機関

GAP認証機関、有機JAS認証機関、土壌分析機関

(5) 農業業際分野

福祉農園、市民農園、生ごみ堆肥化推進団体、農業と環境をつなぐ活動

(6) 教育、体験、趣味

食育、家庭菜園、学校農園、ガーデニング、庭園、公園

3. 首都圏土壌医の会の大きな可能性

首都圏土壌医の会では、
会員が対等の立場で交
流する。

首都圏土壌医の会

大きな可能性

情報交換・交流

研究者
行政職員
農業指導員
営農指導員

肥料、農業資材、農機具、
農薬、用土等製造および
販売会社社員
農協職員

農家
農業法人社員
福祉農園職員

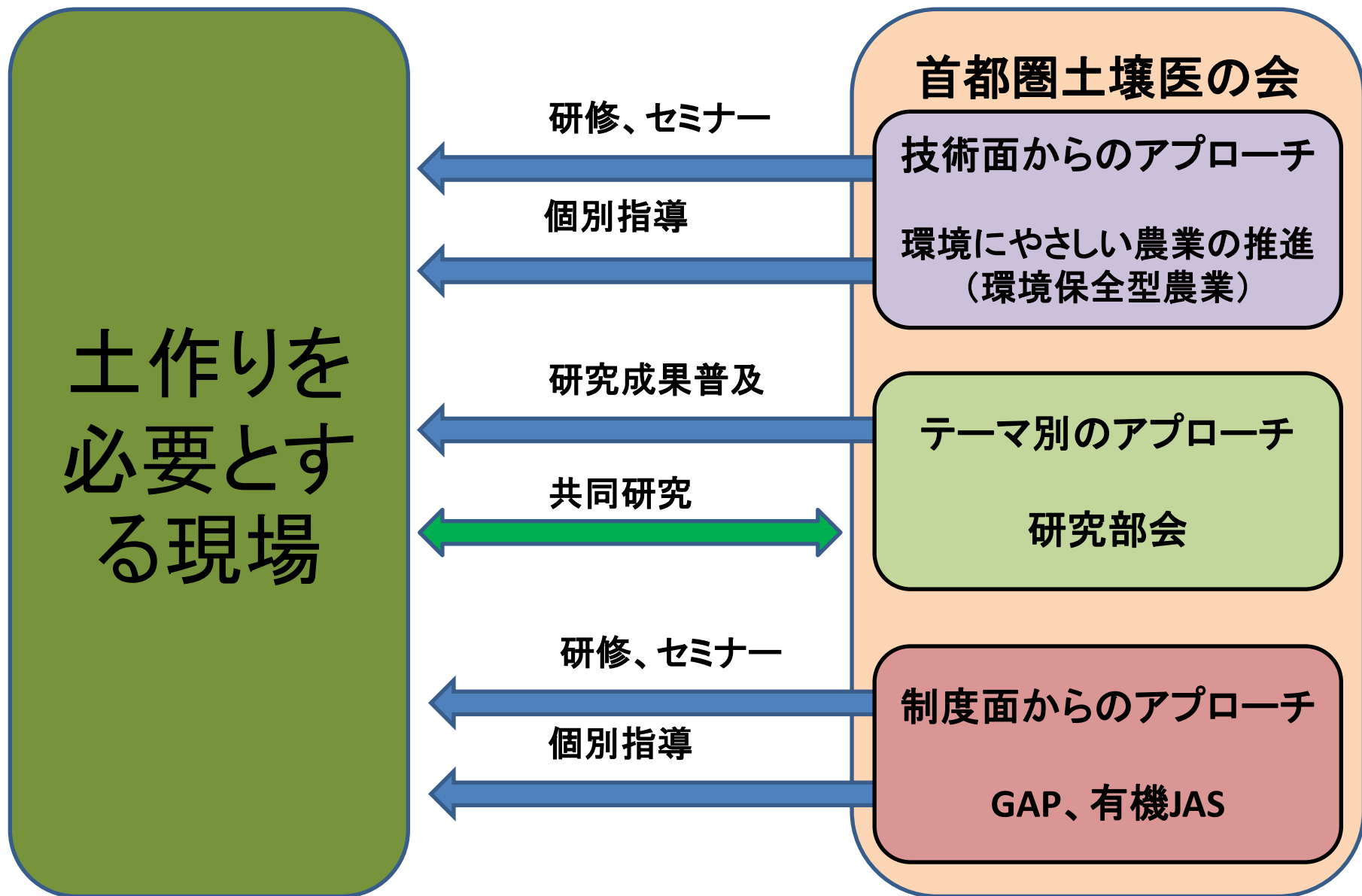
消費者、
生ごみ堆肥推進市民団体
環境保全関連団体等
構成員

市民農園の
参加者
・管理者

有機JAS、
GAP認証
機関職員
グリーンアド
バイザー

行政職員
学校菜園、食育な
ど教育現場職員

4. 首都圏土壌医の会の取り組み方法



5. 首都圏土壤医の会と準会員

首都圏土壤医の会では、活動に賛同してくれる人を積極的に受け入れます。

